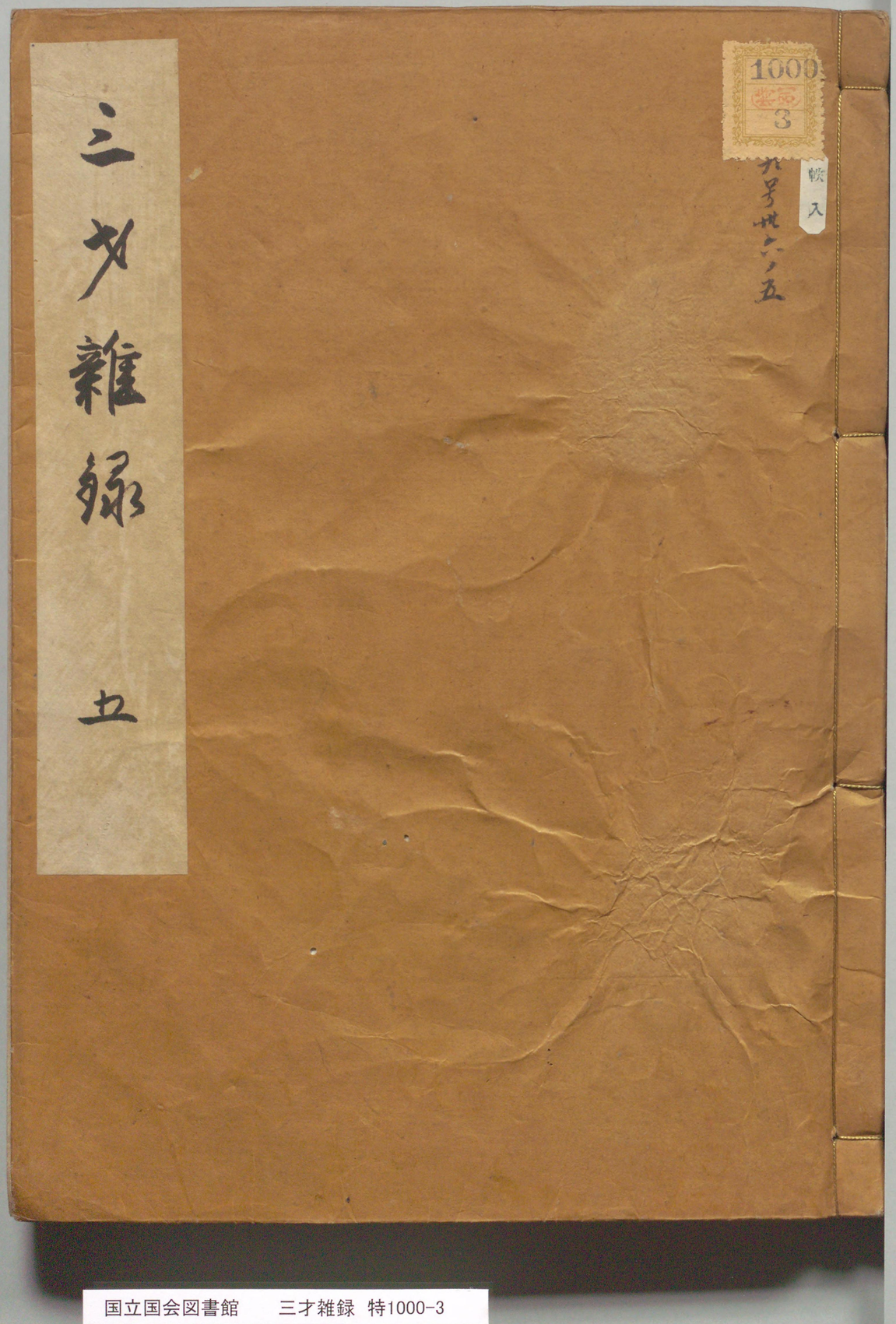


三才雜録

五

1000
3
帙入

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

特1000
3

国立国会図書館

目次

可睡齋由緒　六角氏卿傳　三川雀
御着袴式　御裝束式　道三作書
將軍宣下記三品　正月元日并節分御規式
系圖　詩所額筆者　三韓紀畧内
寛文日光御社參記　日本紀竟宴和歌
天野氏證文　伊勢祐和傳　志なしまの記内
釈采かな解

朽木文庫
飛田文庫
三才雜録 三十二

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

玄々亭雜記

可睡齋御由緒之頃ノ文

一可睡齋住持隠居　御赦免後住願之義者
全生寺ニ退ル于役僧ヲ以願上ル且又起て
清伺し義預訴訟共ニ事之怪度ニヨリ或書
状或役僧ヲ以ヤ上ル至後府以来
御神意之先例ニ所座ル

一可睡齋二十一代嶺育万治四年丑年僧録
国師下知状文言

三河　遠江　駿河

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

此三ヶ國曹洞宗并
伊豆國修禪寺之
門派如前々可為
僧録之旨取計
作出也有来通之
於陂沙汰者也仍如件
万治四丑三月廿日

美濃守印
豊後守印
伊豆守印
雅楽頭印

今丑年迄九十七年

可睡齋

定

一諸宗法式不可相乱若不行義之事於
有之者急度て及沙法事
一不存一宗之法式之僧侶ふゝのみ寺院住持
之事
付新義不可翫奇怪之法事
一本寺之規式不可乱之縦虫為本寺対末
寺不可有理不尽之沙法事
一相越之輩虫為何事可任其心從僧侶万
不可相爭事

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一結徒黨企鬪淨不似合事葉不可仕事
一背国法軍到来之節於有其届者無異義
可返事
一寺院佛閣修復之時不可及美麗事
付仏閣無懈怠掃除可申付事
一寺領一切不可賣買之并不可入質物事
一無由緒者虫有才子之届猥不可出家若
無接子細お在之者千所之領主代官ゟお引
可任其意事
右條々諸宗共ニ可堅守此外先判之條数
摩ゝお肖之於遠犯者随科之軽重可沙汰
之猶載下知也

寺院下知状

一僧侶之衣躰応其分際の着之并何事作
善之義或旦那虫望之お應経可仕事
一旦方建立由緒在之寺院住職之義者為
其旦那計之条其本寺遂お談可任其意
事
一以金銀不可致後住之契事
一供在家構仏旦不可求利用事
一他人者勿論親類之好虫在之寺防舎女人
不可然至之但有来妻帯者可為各別事
右條々のお守之いれお遠犯者随科之経
全可有仏沙汰之化仰孰達如件

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

寛文五年七月十日

大和守
美濃守
豊後守
雅楽頭

此外文禄十六未八月七日寺社奉行三人連
判ニ掟元文三午八月同三人ニ掟書畧之
右従
東照大権現様　台徳院様御朱印御
條目御定書并可睡斎ハ由緒書駿府
政事録ニ宝中ニ口授致抜書差上ル
以上
宝暦七丁丑年九月

寺社御奉行所

可睡斎守賢

大系図評判遮中抄

六角中務氏郷傳

此者ハ元近江国ニテ種生ノ知サル凡下ノ民也
父ハ沢田喜右衛門ニテ坂本雄琴村ニ手ツカ
テ鋤鍬ヲ取テ終ノ地ニ耕作シテ世ヲ渡リシ
農夫也武州忍城主阿部豊後守忠秋ニ
正保四年ノ比如恩ノ地ヲ江州玉ハリシ時喜

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

右恵ノ其家ノ吏官某カ下司ト成テ名ヲ武
兵衛ト改租税ノ事ヲ司リシニ万ツ戈覚有テ
レハ后ニ忠秋ヨリ忍ノ縣令ト成サル是ヨリ
先内村ノ百性和田勘兵衛カ女戌ト充ヲ娶
テ子ヲ生ス名ヲ喜右恵ト云下賤ノ子トイヘ𪜈
容貌自然ニ優アリシカハ稚ヨリ普蓮院
尊純親王ニ奉テ禿童トナル門主是ヲ愛
シテ常ニ所側ヲ離レス召仕ハレシ也天性強記ニ
メ書ヲ價又筆法ニ彼シ其挙動イヤシカラ
ス然ナカラ元来庶民ノ子ナレハ其気質飽
マテ卑劣ニメ太々奸佞ノ心アリ親王家ノ建
盞ヲ盗テヒワカニノ市ニウル因テ忽追劫セラ

レ田里ニ皈テ深ク此事ヲ隠シ山伏ト成テ偽テ
諱ノ字賜レリト云テ名ヲ尊覚ト号ス父甚
是ヲ攻テ速ニ其名ヲ改シム依之還俗ノ沢田源
内ト号天野豊前守長信ニ仕ヘ又飛鳥井宿
雅章々ニモ仕シカ皆乎命ニ背キ家ヲ黙テレ
牢浪ノ身ト成テ擽ナキマヽニ已カ戈覚ヲ以
卑銭ヲ蔽隠シ光族ト号メ身ヲ立ヒト欲シ
ヒソカニ六角佐々木ノ正統ト称メ各ヲ近江
右恵ノ義綱ト改メ偽テ定頼朝臣ノ長子ニ大
膳大夫義実ト云名ヲ作リ其子修理大夫義
秀基子右恵皆義郷三代ヲ新ニ佐々木ノ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

系中ニタテヽ己カ父祖トシ義賢朝臣ヲ義秀
カ後見ナリトス父武兵衛是ヲ聞大ニ驚キ後
難ヲ隠レテ國ヲ源内ヲ禁メ是ヲ叔父和田カ
家ニ執置其身ハ忍ノ地ニ下リヌ依之潜ニ
宅ヲ逃レ出從才ニ畑源左衛門と云遊民ノ
許ニ隠シ居テ彼義実ホノ事跡ヲ造リ成
旧記ニ増補シ成新ニ偽書ヲ編テ其虚傳ヲ世ニ
弘メシハ父是ヲ悪ミ怒ルトイヘ圧國ヲ隔テ
如何共スルヿヲ得ス終ニ父子ヲ思義ヲ絶テ
其後忍ニ病死ス二男沢田権之丞父カ跡
ヲ継テ阿部氏ニ仕フ兼応二年ノ比源内

江府ニ来リ佐々木正統右衛門義綱ト称シ
中山市正々信ニ属ナ水戸頼房卿ニ奉仕
セン事ヲ乞彼偽譜ヲ献ス即東叡山宿
坊吉祥院ノ沙門某ヲ以其系図ヲ真ノ
六角流佐々木源兵衛義忠ニ賜テ虚実ヲ
爪尋有ケルニ悉ク偽作奸妄タル由訴ヤシニ
依テ其奸曲顕ルヽノミナラス義忠又真系
ヲ乱スヿヲ怒テ其酋本多美作守忠相
ヲ以具ニ此事ヲ上ニ話シ彼ノ身ヲ賜テ禁遏
ヲ加ヘキ由久世大和守廣之ニ訴申ケレハ此
由ヲ聞大ニ驚キ狼狽メ夜中ニ江州ヘ逃下

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

名ヲ六角兵ア氏卿ト改世ノ変ヲ伺ヒ居ケルカ
遠國ニメサノミ答ムル人ナキ故潜ニ帝都ニ出
相國寺ニ寄宿ス寺僧其能書ヲ喜ヒ彼ヲ
留テ寺中筆翰ノ用ヲ調シム是ニ依テ此僧ハウ
ト密談シ其外數軍ノ阿黨ヲ集メ天文六
年ヨリ元和七年迄八十余年ア間佐ニ木家ノ
日記ヲ偽作メ廿巻トシ江源武鑑ト号テ板
行ス是ヨリ猶其矯ヲ蓋ヒ隠サン為応永
年中ニ特進亜三台藤原公定卿ノ携ヒラレシ
尊卑分脉系圖ノ中要ヲ摘テ諸家大系
圖十四巻ト号メ世ニ行ルヽヲ本トシ佐ニ木ノ

譜中ニ新ニ多ノ名諱ヲ偽作シ已カ本性
沢田氏外祖和田氏従弟畑氏及乾氏
此奸妄ニ与スル者皆我ニ一派トシ又織田朝
倉武田豊臣ノ系中ニモ彼虚偽ヲ妄作シ
載テ全部三十巻トメ大系圖ト号テ梓ニ鏤ム
此外倭論語足利治乱記浅井日記異本
関原キ勢及軍記ホ皆彼カ一世ニ奸シク虚
説ヲ注メ俗眼ヲ眩マス是ヨリ後悪法ホ相續テ
彼事跡ヲ真シク旧記ニ補入シ又其偽ヲ知テ
ル輩ハ侮中ニ引所謂國家治乱キ異本難
波戦記後風土キ高名キ諸将軍傳浅井

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

始末キ同三代記東國太平記日本將軍傳
諸家興亡記武家盛衰記ホ此外多シ蜜
蜜人ノ家フヲ偽作シテ渡世トス元録戊辰
年六十八戈ニテ病死ス女一人艸医ノ妻ト成テ
今洛陽ニ有トサム

參河雀　全四冊
宝永四年板行三州御油駅老翁集
門谷村煙巖山鳳来寺千五百石
開山利修仙人　本尊藥師

新田二十石　權現宮御代官　庄田与惣兵衛
岡崎能見山松応寺百石
同所仙現山隨岩寺五十石
松平々本松山高月院百石
廣石村川津山大恩寺百石
蒿机　大恩寺
尚年甲乙軍勢於彼寺中不可濫妨狼籍
若背此旨者可被行嚴科者也仍如件
元亀四年正月三日　山縣三郎兵衛尉
右者信玄味方原合戰之後也

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

岩津村弥勒山信光明寺百八石
同村法性山妙田寺百一石五斗 松平親則建
岡崎十王山大林寺百石
山中村二村山法蔵寺八十三石
神君ハ手植ノ松アリ
上五井村龍田山長泉寺三石
松平外記伊昌ノ寺也上中下三所五井アリ
中五井ヨリ禁裏御調ノ所油ヲ献上ス仍二
百五十年已前五油ト改
西郡村龍臺山天桂院十一石
長篠村医王幽寺 鳥居鉄右衛勝高法名

智海常通居士
麻生村阿弥陀寺 弘治二年二月十二日
岡崎ハ出馬ハ先備松平甚太郎軍奉行
本多豊後守石川伯耆守同安木ヲ惣六
備此寺ハ初陳所也日近ハ合戦ト云梅坪村
挙母村寺部村所ミハ合戦ハ勝利
衆名村廣忠寺 松平右京亮忠改位牌
アリ今改光中寺
信玄村信玄堂 長篠合戦甲州方討死ノ
者ヲ葬ル 以下畧
岡嵜伊賀 八幡宮 七 喪百石

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

根小屋村　東照宮長篠ハ陣所也
杉山村山守徳兵ヱ五石三ヌ田原伊良古筋ハ
猪狩ノ時ハ下置柳松ト云アリ年〻柳ノ
如ク生ス
土呂村松平甚加諸役ハ免
境田村万歳作大夫以前ハ浅草ハ荒〻テ米
十五俵ヨリ下近年ハ勘定アヲ〻テ正月十日
万歳お勤ハ金ヨリ下
碧海郡　百三十四村
高七万八千七十五石八斗　五升五合
賀茂郡　三百五十一村

五万九百四十八石八斗九升七合
額田郡　百五十二村
四万二千八百十石四斗　五升四合
幡頭郡　百二十四村
四万六千六百十八石二升七合
宝飯郡　百三十七村
五万千八百七十八石二斗二合
設楽郡　百六十五村
二万五千十四石四斗　五升六合
八名郡　五十二村
一万九千三百六十五石七斗　四升四合

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

渥美郡　八十二村
四万六百七十四石八斗七合
惣高三十五万八百八十五石九斗二升
外新田三万石
御朱印高一万千三百九十五石五斗七升二合
寺領　七千七石十六石五斗六升七合
社領　三千二百八十一石六斗五合
御黒印并寄附寺社
三百九十七石四斗　云々
此前ノ事廿一冊ノ末ニアリ

甲州四奉行　平岩主計以比
樋井安藝ゟ　小田切大隅ゟ
石原淡路ゟ　跡部九郎右馬
慶長九辰ヨリ同十一午マテ
御城番
馬場民部　曲渕筑後　山高孫兵衛
葛木越前　茶倉佐大夫　同　加右馬
折居仁左馬　入戸地九郎　山ゟ甚左馬
小尾彦左馬　青木与兵衛　伊藤新五兵衛
右二人組三ヶ十日ツヽ御馬
大久保石見ゟ以仕置　。番

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

御奉行
秋山甚右衛　平岡忌右衛　大野主水助
末山民部　岩波七郎右衛
慶長十一午ヨリ同十八丑マテ
御城番武川十二騎尻
御奉行
同向半兵衛　嶋田清左衛
慶長十八ヨリ元和九亥マテ
元和二辰ヨリ
駿河大納言様　御領
御城代　三万五十石　鳥居土佐守

御番　水野監物　大久保玄蕃
御横目　長田庄左衛
寛永元年子ヨリ御領
志ゝ田奉行
平岡次郎右衛　子同　勘三郎
御城代
寛永十三子ヨリ五月四日代リ　伊丹播广守
六千五百石　遠藤茂四郎　三千五百石　設乐甚三郎
丑六千四百石　戸田茂五郎　三千八百石　罡本宮内
寅四千五百石　酒井下総守　六千石　竹中左京

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

卯八千石　本塗伊勢
辰七千石　神保左京
巳四千石　山口勘兵衛
午一万石　溝口金十郎
未五千石　藤掛監物
申四保元
五千五百石遠山勘右衛
酉六千四百石　戸田藤五郎
戌五千石　西尾権之助
亥五千石　采津内蔵助

五千石　菅谷喜八郎
五千石　采津内蔵助
五千石　稲葉権之助
五千石　淑　兵右衛
五千石　近藤彦九郎

五千石　薄田久太郎
七千石　神保左京
七千石　渡辺久左衛
五千石　近藤彦九郎

子慶安元
五千石　皆川又七郎
丑八千石　本堂源太郎

寅五千石　水野半左衛
卯四千二百石堀田権右衛
辰某応元
四千五百石酒井下総守
巳五千石　井上帯刀
午四千石　大嶋雲八郎
未明暦元
四千石　秋山十右衛

五千石　平野権平
七千石　山名主殿頭

五千石　一色宮内
五千石　本田帯刀

六千五百石近山半九郎
五千石　三枝越四郎
七千石　花房大膳

六千石　石川左兵衛

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

申 五千石 水野半左衛 七千石 菅沼主水
酉 五千石 李多帯刀 六千石 花房外記
戌 万治元 五千石 堀田五郎左衛 五千石 藤掛監物
亥 五千石 沼間新五郎 七千石 神保左京
子 五千石 安藤内蔵助 七千石 杉浦市右衛
丑 寛文元 五千石 石河蔵人 五千石 久貝忠左衛
寛文元九月廿八日 甲府中納言取
城代 渡邊六左衛
宝永二三月十九日 松平美濃守

城代

柳沢隼人

御要害山

永録三庚申山本勘ゟ縄張山上ニ小水アリ諏訪水ト云此地天下三ノ名地未申ニ向甲州御在府命諸本ハ必ハ却成ヲ変由信玄ヘ勘ゟ中古由勝頼公已後小田原陣也 御尚家ヨリ致作付ヽ弱井右京日向玄尚所同半兵衛ハ番也信玄公ハ誕生モ此要害ノ下積翠寺村之内也飯田河原陣時分古城ヨリ女中所積翠寺村之内ハハ引籠也

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

正月廿八日

若君様御着袴御親式次第

一殿中御清之儀前之　御宮御条請之通

若君様ハ

公方様ハ

御上下　長二ヶ　半三ヶ

但臺ニ包のし添之

右之通致進之御使者右近ハ監宅ハ直ニ

ハ廣ヲ相越ハ目六老女ハ渡之

イニ巻ハ二十三種三荷添

若君様ハ

公方様ハ

御太刀目録　巻物十

三種三荷

一御座之間御上段

公方様ハ長袴

若君様ハ半袴　ハ着座

御對面此節老共但馬ヲ椽頬ハ死ヲハ祝義

ヤ上之退座

公方様御名代

若君様御名代

山王御名代

松平周防ヲ直垂

秋元但馬ヲ同

大久保對馬ヲ

右紅葉山　御宮ハ条拝

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

二月二日紅葉山　御宮に
若君様　御行列ニ而御系詣
御先に酒井飛弾ゟ相越右近ゟ監但馬ゟ
鳥居伊賀ゟ御駕籠臺ゟ御供
御唐門之外ニ而御無清ニ而遊御小性役之
静慮院拝迎御進献之御太刀目六於階下
渡之列　御神前に納之御拝殿御膝
突ニ而御拝礼　御幣御頂戴静慮院勤之
御右之方御着座御膝突御側ゟ召之于時
御上器
御酌

御加
御酒御頂戴老女勤之相済而還御
一御座之間　御上段　御着座
若君様ゟ
公方様に
作御太刀
御馬代黄金弐牧
巻物十
三種三荷
右御太刀目六但馬ゟ持出披露　若君様御礼
ニ而相過而同人引之
公方様ゟ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

若君様ニ
巻物十　三種三荷
右ハ目六右京太夫持出披露ニ渉而年
寄共但馬ヲ一同出座
公方様
御盃　熨斗盛　鯉盛　御盛形
ハ捨土器
若君様
熨斗盛、、、ハ酌ハ加
公方様ニ召上ハ銚付ハ加ヲ之ハ銚付
若君様ニ進ハ頂戴ニ召上ハ銚付ハ加
有之時ニ進ハ刀吉岡一文字代金五十枚ハ脇指信國三十枚

右京大夫持出之
若君様ハ前室之ニ為進ハ与上意之右
ハ大小引之畢而
徳川右衛督殿
徳川宮内卿殿
徳川民部ハ殿
徳川大蔵ハ殿
右ニ出座御祝義ニ中上之過而年寄共
但馬ヲ一同出座ハ祝義中上之次板倉佐渡ヲ
御目見早而ハ年寄伊賀ヲ飛弾ヲ御目
見何茂ハ祝義中上之
一七五三之御膳

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

若君様指上之
一御座間御上段
公方様　君君様ハ着座ハ長袴
公方様へ　若君様ヶ
御太刀　来国後　代金十五枚　巻物十
白銀三十枚　御馬一疋鞍置三種三荷
右ハ太刀目六右近ハ監披露之御禮ハ花畢而
同人引之
公方様、初献　御盃　御引渡
若君様　御引渡

公方様　若君様
御捨筈　同　御酌　御加
公方様ハ召上御跳付ハ加在之御跳付ハ盃
若君様ハ進　御頂戴ハ召上ハ跳付ハ加有
之時ハ進ハ太刀　久国　代五百枚ハ小刀　宗瑞正宗　代金二百五十枚
右近ハ監持出之　御前ハ置之ハ進旨
上意有之畢而引之　右御盃ハ跳付ハ加ハ
之ハ跳付ハ跳子入
二献
公方様　御盃　初之ハ盃と引替
公方様　御雑煮ハ引渡と引替

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

若君様　御雑煮　御酌　御加
公方様　ゟ召上ハ挑付ハ加在之ハ挑付ニ
御盃
若君様ハ ゟ進ハ頂戴ゟ召上ハ挑付ハ加
有之ハ挑付ハ返盃ニ之ハ挑子入ハ盃引之
三献
公方様　御吸物
若君様　御吸物　御酌　御加
公方様ゟ召上　御挑付ハ加在之ハ挑付其ハ
盃
若君様ハ ゟ進ハ頂戴ゟ召上ハ挑付ハ加在

之ハ挑付ハ返盃ゟ召上ハ挑付ハ加在之
ハ挑付ハ納畢而引之
二月三日
御能組　八鳶
翁三番叟　老松。東北　祝言　金札
萩大名　福の神　那須
時服　酒井雅楽頭同　松平下総ゟ
同三　酒井備前ゟ
右之通於ハ白書院ゟ下之
時服六　秋元但馬ゟ同四ツ、　西丸若年寄
同三ツ　同ハ側爪　同二ツ　ハ小性ハ小納戸

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

右お奥ゟ下ゟ

将軍家御裝束之事

御冠　御束帯　御紙捻　御袍　御紋丁子唐中葵丸

御下襲　表白浮緑蝶裏黒　四菱遠紋　御袖　表四菱紅板引　裏紅平結

御単　御表袴　表窠霰龍膽　裏紅板引

赤大口　御石帯

御戦　御劔

御笏　御帖紙

御沓

右ゟ軍　宣下御法事ホ御着

御衣冠

御冠　御組掛　御袍　御単

御奴袴　表鳥タスキ　裏平絹　御浅沓

右御衣冠御着用邂逅　将軍家御

裝束往年御上洛之節御衣紋高倉家

奉仕ゟ流例之有ゟ高倉家調進之

為非ゟ軍家箕冬御裝束為詞也

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

宝永七年琉球國来聘十一月廿一日音乐
上覧出御ゟ小直衣着御
御直垂
御烏帽子左上り組ゟけ御直垂好友冬共紗
東照宮浅黄　台徳公同所
大猷公萠木　厳有公好首故関東
禁此五目
御袴紗紅　御小刀出御之時ゟ打刀御仭ゟ小性持之
御蝙幅
右正月朔日二日六日十七日廿日廿四日
二月朔日木着御公家衆御對顔勅

答同之御直垂二領毎年山科家
為内蔵所調進
正月三日御謡初ゟ長上下ゟのしめ
同七日七種同所　同十一日同所
同十五日ゟ半上下　三月三日ゟ長
四月朔日ゟ半　五月五日ゟ長染ゟ帷子
六月十六日ゟ長　七月七日ゟ長ゟ白帷子
八月朔日ゟ長ゟ白　九月九日ゟ長花色ゟ小袖
九月朔日ゟ半のしめ　玄楮ゟ長のしめ
十二月廿八日ゟのしめゟ半

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

公家爪ハ能時ハ如しめ
想して爪長上下ハ兵の時ハ爪打太刀ハ小
性持之
武臣裝束
束帯
冠　袍　ハ三家唐中諸家ハ無輪
大帷子　布冬ハ白箕ハ紅小襟アリ
単下襲ヲ切付ル
裾　表袴　石帯　赤大口
襪　笏　劍
衣冠

冠　組掛アリ　侍従以上
袍　中啓
単　奴袴　平絹浅黄
右御法事ホニ着之
直垂侍従以上着之
烏帽子　右上リ風折組かけ
内衣　小袖白　老中近年のしめを着酒井讃岐守
大老の時ハ始玉元斗内衣白小袖
衣直垂　三家地紗外ハ精好
色目何れも人次第
袴　地色目上ニ同
緒太　小サ刀　蝙蝠
狩衣

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

烏帽子右上り風折紙捻　内衣のしめ白小袖
狩衣紗色目不定　指貫浅黄平絹
小サ刀　蝙蝠　緒太　正徳元深紫
大紋五位着之
烏帽子右上り風折紙捻　内衣のしめ
大紋直垂　地布色目不定家々の紋ヲ付露付括山科五所高倉三品所浩流江
葉山供奉ニ大紋ニ衛府釼帯紐ニテ着小刀ヲモ指シ正徳元朝鮮人の時諸大夫初ヲ狩衣着用致仰付
袴　小刀　蝙蝠　緒太

烏帽子右上り風折　内衣のしめ
布衣地のしめ色目不定　指貫平緒ハさき
小刀　蝙蝠
素袍
烏帽子　内衣のしめ　素袍
袴　小刀
右雖非正式尚時江戸之御作法如此
歌合類聚
天徳　近江御息女　若狭守

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

高倉院　中宮
建春門院　廣田社
賀茂社　右大臣家
百番月　御室
撰　水無瀬
乃宮　仙洞
光明峯寺　負永
遠嶋　撰五十番
伊勢祈名所　外宮
新玉津嶋　名所

住吉社
新羅社
時代不同
新宮撰
石清水
建保
日吉社
宝治
詩歌
文亀

三十番　秋五十番
按察使親長卿　七夕

百首類
堀川百首　同後度百首
名所百首　正治百首
五社百首　久安百首
延文百首　将軍百首

宝治百首
弘長百首
永享百首
嘉元百首

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

歌仙　新歌仙　續女歌仙
中古歌仙　釈教哥仙　職人歌仙
六〻撰

道三作書

啓迪集八　医燈配劑三　出燈配劑二
切紙二　天正記二　続天正記
聖功方二　十五指南三　宜禁本中二
脉論一　小児方一　師語録二

全九集七　病因諸治例五　製刑紀一
恵花方三　本中斉三　養生月覧一
異名記一　サスノミユ一　衆方規矩一

大猷院君将軍宣下記
元和九年八月家光公御参内諸家御禮
之事
一番
敕使　三條大納言
女院御使　岩倉木工頭

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

女御ハ使　三條大納言

一公方家光公御上段ニ真中ニ御シトヲシ不致
敷ハ座ハ事

一天皇ノ御下シ物上段ニ上ルハ太刀使者持条メ
公方様ヘハ直ニ渡ス致ハ頂戴ハ処殿上人
請取テ床ニ納ハ也

一女院御所ニハ進物ハ使者持条　殿上人
次ヘ引ニ

一女御ハ方ハ進物殿上人持条ニ同次ニ引ニ
公方様ハ諸家ハ礼ニ次才

一次敕使三条大納言自分ノハ礼殿上人披露

一女院ハ使岩倉木ユ頭ハ礼太刀持条各斗披
露同殿上人　右勅使ニ御礼ハ済

二番

一摂家　親王
但関白其次ニ尚友三大臣次親王亢次ニ右
何モ左右ヲ分テ上殿ニ着座

一進物ハ下段但上段ノ際三尺程ノケテ置ハ
太刀斗上段上ル但上段ツマリハ力進物ハ下段
直ル式正ニハ進物モ上段ヘ上ノヘキヿ人下段ニテ
モ不苦也取次殿上人右各御礼ハ済退出
ノ時

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

公方様ハ縁迄ハ立ル成ル

三番

一諸門跡ハ礼親王家次才先ハ出也着座ハ次才進物ハ下右摂家ハ同前退出之時モ御縁迄ヲ為贈也

四番

一清花大臣御礼上座着座なし

一次殿上人太刀持条各斗披露殿上人

一次院家ハ殿上人披露

一次蔵人

一次非蔵人

一次傳奏之役人次下北面次両局次判官次諸役人次随身

一翌日實相院国満院ハ門跡着座なし是ハ親修寺門跡ト座論ニ付同ヲ替テハ出仕也

一次比丘尼ハ進物上ル殿上人披露

一當番之公家ハ

一次當番蔵人非蔵人諸役人随身各ハ礼次才右同所

一番

一関白殿南ノ九条殿也

一進清殿

一一条殿

一八條殿

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一伏見殿
一鷹司殿
一鷹司大納言殿

二番

一仁和寺殿
一照高院殿
一大覚寺殿
一一条院殿
一梶井殿
一青蓮院殿
一二条殿
一九条大納言殿
一聖護院殿
一竹内殿
一妙法院殿
一智恩院殿
一三宝院殿
一随身院殿

一大衆院殿
一勧修寺殿
一寛相院殿

三番

一西薗寺殿
一日野大納言殿
一菊亭大納言殿
一中御門
一烏丸
一正親町中納言
一中御門
一三宝院殿
一圓満院殿
一花山院殿
一廣橋大納言殿
一滋法輪大納言殿
一西薗寺
一万里小路入道
一四辻
一河野

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

一清閑寺　一日野
一中院　一花山院宰相
一廣橋　一西洞院
一柳原　一西薗寺
一水名瀬

右之外中ゟ少ゟ以下七十五人姓名畧之

将軍宣下ノ次第

一廿七日朝於禁中陣之義ハ改有之
一陣之義相済ゟ分ハ服極ゟ公家ハ同両局并
役人何茂束帯ニテ長柄ニ乗伏見ハ城迄

其乗ゟ但雑色警固之公家之分ハ長柄ニテ二
之ハ門迄其乗ゟ両局ヨリ下之役人ハ如是ニ
ゟて大手御門之栄勅使ハ殿中玄関之其
乗ゟ車右各殿上之男子伺公其後ゟ車
一公方様御對顔之不御廣ヲ上段ニハ床ヲ
ハ志と通ふし所腰抱かけ無之
一公方様ハ仕衣束ハ直垂之ハ太刀大沢少ゟ
ハ腰抱吉良左兵衛
一公方様ハ出ニ以前昵近之公家ハ縁ニ
伺ゟ又国大名之公家四品之ハ次之ハ座
後ニ伺公ゟ名諸大夫平次ニ伺公又
一公方様ハ出ゟ後ハ上臈ハ着座ゟ以後役之

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

公家三條大納言正親町殿中ゟ五條少納言
坊城大外記勸修寺并ハ前ニ出下段之左
座ニ着座求帯
一 次告使ハ白洲ニ下リ上段ニ向ハ昇進ト二声
呼テ帰
一 次清之らの蓋ニ綸旨ヲ入洗使ニ持セ殿上之間
ヲ出テハ次間ニテ皮務ニ持系シテハ前ニ
ハ縁ニ持系ス殿上人請ス 公方様御前ニ
至別ハ頂戴有テ綸旨右之ハ脇ニ至ル
モ蓋ニ砂金二袋入テ官務ニ渡ス御前ニテ
頂戴仕ル
一 次坊城大外記如初宣旨持系上段ノ下ニテ

殿上人請ス如右 公方様ヘ出リ如前大外
記ニ渡ス
一 次大外記宣旨如右持系シテハ縁ニテ殿上人
請ス如此次第砂金二袋
一 次官務宣旨持系如右次第砂金一袋
一 次大外記宣旨持系右次第砂金一袋
一 次皮務宣旨持系同所
一 次皮務同所
一 名宣旨ハ渡ル而 其座之公家ハ前ヲ立
太刀折紙ニテハ礼ヲ申上ル象ト披露
一 其次ニ昵近之ハ公家ハ前ヲ立 立何も

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

太刀折紙ニテ用礼ニ而上ハ同人披露
一次ニ為太刀折織持条シテ用礼ニテ用礼
一次役人ハ太刀指条ニテ用縁ニテ用礼
右宣旨之數
一征夷大將軍宣旨一通
一位記宣旨一通
一氏長者両宣旨
一内大臣一通
一牛車両宣旨
一兵杖
宣旨八通　砂金九袋

右役之所
一上卿　三条大納言
一奉行　正親町院中ハ
一叅仕弁　勧修寺
一宣旨　両局大外記及勝
一告使　所蔵式部丞
右之外陣之義役人出納豊後守同ハ監六位外記
公方様手前ニ而役人
一取次　吉良左兵衛督
一砂金出ス　阿部侍中守
一御太刀　大沢少ハ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一 御腰物　吉良左兵衛督
将軍様御案内之次第
一 一番雜色四人きうこの棒二行同四人ゟ棒二行
一 次雜色頭四人烏帽子上下ニ而二行
一 次ハ同朋御長刀馬上
一 次ハ唐笠烏帽着持之
一 次板倉周防ゟ右長刀白丁二行青山伯耆ゟ
左右同所
一 随身八騎　二行
一 歩行之諸大夫　二行
右二行之中一番ハ物一荷

一 次御車之撮　次御長刀
一 次牛飼六人紫狩衣ニ而左右ヲ祢り
一 次ハ車牛二疋ニ而曳牛飼ハ車之一のうりニ
付同布衣ハ車之前後ヲ供奉ス
一 次烏帽子頭ハ車之跡ヲ供奉
一 酒井雅楽頭長刀馬上傘烏帽子頭
一 次騎馬之諸大夫十四キ二行
一 公家ハ尾張紀伊水戸此三人長柄残り
ぬりこし
一 四品ハ先ハ糸禁中四脚ハ門ニ御目
見之事

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一 禁中之公家衆何も四脚ニ而ハ目見事
一 御車四脚ハ門ニ立之事
一 御三家立石ニテハ長柄ヨリハ下リハ事
一 騎馬之諸太夫随身立賣二丁女の城戸ヨリ
下馬之事
何茂役之衆
一 御簾 三條大納言
一 御沓 日野大納言
一 御劔 吉良左兵衛督
一 御腰物 大沢大京進
一 御沓渡 酒井讃岐守

公方様御前ハ扣用人
藤右衛佐
飛鳥井中将
於禁中御對面之儀式同三献之御祝次
第之事
一 公方様長橋之ハ局ハ御座上段之下ハ
着座之事
一 御劔御腰物同縁ニ伺公之事
一 御物一荷 公方様ハ前ニ置ハ同朋ハ物ニ
付ハ而居中ハ事
一 長橋之局ハ迎ニ来ハ事
一 公方様ハ進物ハ出来之以前何も縁ニ

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

並に座ハ事
一次天子上段ニ二重ヲ置ハ志ニ孫の上ニハ座
ハ事
一天子ハ裳氷浅黄ハ衣紅ニ御袴ハ冠
一局方下段ニ伺ハシ事
一公方様ハ太刀傳奏持糸上段ニテ披露シ事
一公方様蓮臺シ男ニテハ礼ニ作上ヲ男ニハ
着座シ事
一御盃長橋局持糸シテ上段ニ而上臈ハ方
ニ次天子シハ前ニ而置ハ事
一次高盛シハ雜煎天子シハ前ハ長橋シ局
ハ手長上臈ニ次ハ前ニ而直ハ事

一同ハ雜煎　公方様ハ前御配膳藤右馬
佐
一次ハ銚子長橋ハ手長上臈シハ方ハ酌ニ而
天子ハ盃ハ公方様ハ此也ハ頂戴ヲ
テ其ハ盃上臈シハ方ハ納ハ其時ハ酌長
橋局
一次ハ吸物高盛出ルハ加よひ右同前
一次御銚子出ル天子ハ公方様ヘ糸ハ
而其ハ盃上臈ニ納ハ事
一次御吸物たいハ加用同前
一次基シ物出ル天子シハ前ハ長橋局手長

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

上﨟請ゑ公々之上ニ於盃也
公方様御前ニ成右衛佐兆多井中将女人
シテ加きゑ於置ハ事
一 御銚子出 公方様ニ長橋進上ゑ申ハ
公方様ハ請ゑ上段ハ上リ於成初献出ハ
御盃ヲ上﨟天子之ハ前ニ於盃ハを
公方様ハ酌ニテ天子なりハ加へ成右衛
於仕ハ其ハ盃 公方様ニ余ハ時 天子ハ酌
於成ハ 公方様ハ盃ハ持ハ立座ハ時
上﨟其盃於納ハ
一 次御銚子改リ 公方様ニ進上ゑ申時上﨟ハ

始ハ ハとをり於者ニ次ハ局中 﨟之ニ於い
つまり 公方様ハ敬ニ而ハとをり於給ハ事
一 次眤近之公家衆三条殿ハ各於出ハ事
公方様ハ敬ニ而ハとをり於給ハ何もハ納ハ
事
一 次女中納言及水戸宰相殿 天子ヲ御礼
御太刀三条殿中段ニ而披露何も下段ニ着
座ハ盃出天子なり天子ハ敬上﨟ハ酌
長橋何もハ盃余土器持余ハ立居事
一 御祝之写 御殿ハ膝物者天子之ハ所ハ縁
ニ伺書ス

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

一蓮臺間トハ中段之事也

一御座敷一間之内ニ椎二本ツヽ立中之内ヲ不通天子之御左之ナラシの内を公方様ハ成御通ハ御右之いシノ内ヲ女中亦出入ハ事

一右三献之御祝過　公方様御立座ハ成女御様ハ成御座ハ御通之御ニ摂家親王何も　公方様御目見ハ成ハ不公方様ハ御着も有之少御礼ハ成御通之事

一女御様之御廊下ハ四枚権中納言枚御迎ニハ出御扨御服差請ハ両人御供ニ女御様ハ

ハ成御座ハ事

一公方様女御様ニハ成御座ハ内ニ天子清冷殿へハ為成大名之公家御礼ニ中上何モ天盃ヲ被下ハ事

一四品之衆ハ諸大夫之間ニ伺公

一国大名御礼中上ハ而天子女御様へ被為成御祝儀ハ而其通公方様被成御立座又長橋局ハ被成御座両中納言殿水戸殿御前ニ伺公御祝二献

一女院様御所へ御成御礼之次第天子ト同事右御祝通始之御規式ニ二條御城へ還御之時勅使在之

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一公方様御条内之儀装束　御衣冠儀供之
公家同衣冠諸大夫小サ刀布衣之衆同小刀
太刀随身金襴之狩衣おゝかけ尻籠弓
持馬上也

御供之公家衆

尾張　紀伊　水戸　加賀宰相
薩摩宰相　丹羽宰相　毛利宰相
長門侍従　柳川侍従　越後侍従
美作　豊前　會津　秋田

備前　茶沢　對馬　臼杵
若狭　彦根　丹後　織田
因幡　右是迄なりへニテ

騎馬諸太夫

本多美濃守　松平甲斐ゟ　本多中務少輔
松平丹波ゟ　松平河内ゟ　松平式ア太輔
松平山城ゟ　小笠原右近大夫　松平飛弾守
本多豊後ゟ　松平下総守　本多下総守
松平主殿頭　松平周防ゟ

酒井雅楽頭　青山伯耆ゟ　板倉周防ゟ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

昵近之衆

三條大納言父子　廣橋大納言父子　日野大納言日
烏丸大納言同　柳原宰相　土御門同
六條侍從　飛鳥井兄弟　藤右馬佐
冷泉中將　山科少將　勧修寺弁
舟橋式ア少輔

右此衆將軍之所与力也昵近ト云也
元和九年癸亥八月廿七日　家光公廿歳
之御時也

嚴有公將軍宣下之次第

慶安四年辛卯八月十八日

一御白書院下ノ間ニ御衣冠御裝束ヲ廣蓋ニ
載出之時土御門二位御身固之義式勤之
是者　出御之節御裝束御着用之上虫可
勤之御幼少ニ付略之

一午上刻御白書院出御御裝束御衣冠
御太刀　品川内膳正
御刀　本多土佐守

一高倉大納言　御前ニ出座御裝束之御袖
手ヲ付則退ク是者御裝束之依為役者也

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一御前ニ土御門二位出座下段向御目見則
上段ニ上ケ向御前拜礼有テ退座是者ハ身
固ニハ作法也
一紀伊亜相水戸黄門尾張三議紀伊参議
一同出座御目見則退座但水戸羽林
所労ニ付無出座
一右過ル九廣間出御之時ハ廊下ニハ昵近之
諸太夫並居一同御目見
一大廣間渡御御上段御着座西之縁ニ彦根
羽林會津少将松山侍従列座
一勅使菊亭大納言束帯御前出座於御上

段ハ軍宣下宣筭進上之勅諚之趣ヲ上ル
時ハ礼ヲ遊之此時若狭少将中段ニ出座有
テ挨拶ト旨ヲ帰座其後菊亭中段御右
之方着座
一告使御蔵民部允於庭上向御前御昇
進ト二声ヲ則退
一官務落縁通覧箱持来ル時吉良侍従
板縁ニ出向請取之宣旨之次第
征夷大将軍　右近衛大将
右馬寮御監　淳和装学両院別當
源氏長者　両宣旨

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

以上六通

右之覽箱備　御前時吉良役之御直御
頂戴其後御床ハ納之覽箱西之ハ縁
吉良持出酒井日向ヲ渡之時砂金或拾
両入之南之板縁ハ日向ヲ持出ヲ務渡
之頂戴帰座砂金宣旨一通宛ニ虫ヲ下
之六通一同ニ持ヲ付　征夷之宣下料斗
ヲ下相残ル分者重而ヲ下之

一　重テ大外紀落縁通覽箱持来時吉良
板縁ハ出向請ヲ之宣旨次第
内大臣　右近衛大将如元

隨身兵杖　牛車　両宣旨

右者覽箱備　御前吉良役之御直
ハ頂戴其後ハ床ノ上ハ納之次第右同所

一　右通而菊亭復座ハ目通之下間敷居
際ニテ一礼有之

一　禁裏ヲ為ハ祝義ヲ進ハ太刀目録御前ハ
菊亭持来ハ直ニハ頂戴其後吉良請
取御床上納之菊亭帰座

一　仙洞ヲ進ハ太刀目六小川坊城持来
者同所

一　新院ヲ進ハ太刀目六清水谷持来同所

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一女院ゟ新進黄金廣橋持糸右同引

一菊亭大納言太刀目六并袷献之自分之爪礼吉良披露則御右之方ニ着座右太刀目六井上河内ゟ引之

太刀目六置耶中段下ゟ三ヱ目進物之置所同前

大久保宮内少輔
土屋兵ア少輔持出ル

一小川坊城大納言太刀目六并縐紗三巻献之御礼右同引小笠原壹岐ゟ引之

嶋田刑ア少輔持出

一清水各大納言太刀目六縐紗三巻献上之御礼右同引増山弾正忠引之

酒井蔵人持出

一廣橋中納言右目引井上河内ゟ引之

本多羽監持出

一高倉大納言太刀目六薫物右同引小笠原引之

山口出雲守持出

一土御門二位右同引増山源正引之

嶋田刑ア少持出

一官務大外記太刀目六持糸御社安藤右京進加ニ爪甲斐ゟ引之

一一條内大臣御太刀目六爪帷御袷十白献之於上段御礼則爪座之左方着座吉良披

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

露若狭少将出座挨拶中中段之所見
送退座

一右畢ゟ一條殿勅使院使以下退出老中
所玄関迄送之
牧野因幡ゟ松平美濃ゟ持出之

一侍従以上在江戸諸大名不残大廣間出座
今日之所祝義中上ル酒井忠清披露之

一次下之間ゟ出御所シキイ際ゟ立座此時間之所
襖障子河内ゟ和泉ゟ関之四品諸大夫布衣ホ並居
一同ニ御祝義中上ル同人披露

一攝家親王門跡之使ニ外公家衆家来ホ
進物献上所礼安藤松平披露之

一右之ゟ入御之時おの白書院ゟ三家一人ツヽ御
目見彦根中将川越侍従ゟ挨拶中上ル

一會津少将松山侍従ゟ縁通一同御目見

一出人数百人内 両番百人 大番百人

一入御御上下ニ於御座ゟ長松殿徳松殿
御對顔良刻退座両殿長袴也

一為今日之御祝義無事之大名并三千石以上
之面々少之城ゟ秦者ゟ目付對謁ニ退出也

一二丸御門外ヨリ楚安
大手御門
二丸

坂部三十郎
加
市岡左右大夫
坪内勘兵衛

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

御本丸御門
堀重御門
同朋口

三枝能之守
覓三郎左衛門
栄津梅十郎

文照公將軍宣下次第
宝永六年五月朔日
御惡書院出御　御束帯
御裾
御太刀
御刃
御先立　秋元但馬守

御上臈御着座高倉前中納言衣冠出座
於下段御目見高家披露之刺御御上臈
御裝束御衣紋之規式但馬守相加勤之
但可守不取合中上之上意有之而退出
土御門兵部少輔　束帯　右出座御敷居之外
二而御目見高家披露之但馬守先達而
御敷居際迄無如土御門而上臈へ上り御身
固之規式相勤之御取合中上上意有之退出
一正二位之位記但馬守持出傍御前上覽
相濟而久世大和守納之過而
御白書院出御御先立本多伯耆守御
上段御着座

鷲

以三家水戸中將殿右以對顔伯耆守披
露老中以挨拶ヲ上之上意有之ニ退去
次松平加賀守右御目見同人披露上意
有之退去松平肥後守井伊掃部頭右以
目見
大廣ヲ出御以先立伯孝寺以上段以着
座肥後守掃ヲ以西之板縁ニ着座勅使
高野大納言庭田前大納言仙洞使梅小路
中納言東宮使鷲尾中納言女院使滋
井宰相中宮使外山前宰相大准后使
交野三位右一人ツヽ出座中段左右着座

各束帯
一告使山科民部直束帯於庭上向御前御昇
進上一声呼ニテ退出
一宣旨覽箱ニ入副使番木左衛御車寄
以縁を持来壬生皮務ハ相渡皮務落
縁通覽箱持来之時高家品川豊前ヲ
板縁ニ出向請取之宣旨傳御前上覽之
内豊前ヲ下段ヘ退孫在皮務ハ落縁ヘ退
孫在
宣旨之次第征夷大將軍右近衛大將右馬
寮以監障和弉栄兩院別当源氏長者兩
宣旨以上六通右壹通ツヽ上覽以右之方ニ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一

其置ハ其後ハ納戸構ヘ久世大和守納ニ豊前
高出座覧箱色ニ西ニハ縁ヘ持出ハ時ニ
務出向覧箱請取頂戴退去
宣旨覧箱入副使青木左兵衛尉御車寄
御縁ニ持来押小路柱外記ハ相渡大外記
落縁ニ覧箱持出ニ時高家織田能登ヲ
板縁ハ出向請取ニ宣旨御前ヘ侍上覧
ハ内ニ下ヲ下ニ服ヘ退ニ在大外記者落縁
在立宣旨ニ次第
内大臣右近衛大将如元随身兵杖牛車
両宣旨右一通ツヽ上覧ハ右ニ方ニ其為置
其後ハ納戸構ハ大和守納ニ能登ヲ出

義ニ其中上伯耆ヲ披露ニ次松平加賀ヲ松平
肥後ヲ井伊掃ア頭ホハ目見畢而入御

松平右京忠政此人大魯純ニ性也一向乱ノ
時彼徒此人ヲ以一方ニ咕ヲトス酒井正親ハ
セ行テ連帰ル吾家ニ置キ母ニ譲ニ地来
谷村七百石ヲ領シ則彼所ニ住ス
二代
七蔵長定　慶長十九年五歳ニテ御目見
三代
彦大夫入道鉄心政勝　十七才ニ時三州ヨリ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

江戸ニ来リ奉仕大御番後組頭又亀松君
御守御納戸頭
四代 彦大夫 大御番 五代 彦大夫 大御番 実才
六代 彦大夫 忠明 大御番 元文元年知行 玄呂
上同二年死
御當家御佳例正月元日御献立
未知真偽姑記所見
御本膳
御鱠 さくらし大いらん 御汁 いてら大いらん
志不いなく 田つくり

味噌
御煮物 ホんまやく 牛房 大こん 是を三河煮と云
二
きしみ 鯉子付 御汁 志不鱈
いまゝ爲がらも
引而
御煮物 塩いなく 細よきいのめに切せらゆまてゆる
是をふりこきいなと云
御焼 爲きじ
御吸物 ひれ

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

御雑煮之上ノ佳例之兜御吸物出ル
御老中方ヘノ雑煮ノ酒ノ吸物ひれ并下之
十二月十三日御煤納ノ親式御年男　老中
大奥　御年男　ノ留守居
子持筋之のしめ同長裃着之十三日朝六時
前ニ年男登　城従御奥ノ案内有之而
通ルノ煤竹毎年ノ代官所ゟ上ル
但雌竹雄竹取揃並成り二本水引ニテ
ゆひ合せ根松をふかし長のした付ル
御煤ノ座ノ支所掃之夫ヨリノ次ハ不掛ノ
下男麻上下着之勤之右相済

御目見ノ吸物ノ酒并下之　退出仕ノ押付
右之ノ下男ニ御使ニテノ年男ニ并下物
白米　一俵
薄縁胡座　三枚
山折敷　三枚
塩いわし　三尾
赤椀　三ツ組　三具
右之通宿所ゟ并ニ此外ニ元日御年男夫婦
家司一人上下三人ニテ祝之ト云
節分之夜白大豆ヲ黒クナルホト煎り弦かけ
升ニ入夫ヲ箕ニ入テ持来りてまく
福ハ内二声　鬼ハ外一声
三度ツヽまく
公方様御事ハ数ニ一粒増ニ大豆ヲ三方ニのせ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

差上ル例は祝ハ遊ハ御る右ニ大豆ヲ三方ニ
のせ諸合ニ置ニ而下ニ

竹千代様御誕生ニ付ケ
禁裏ヨリ御祝義相ニ内

一 御細長トハ大概狩衣のくひかゝの様ニいたし
三襦のことのよてハ座ハ寸法ハ凡身のこけ
四尺四五寸袖の長サ一尺六七寸ニて座ハ
地ハ練絹ニていたしそよふハ定る事無ハ
座ハ亀甲とは小きく亀甲の様様を織
付ける事ニて座ハ幼童ニ皇太子

及殿上童童女ホ無ハ兵範記ニ保元三
年正月廿九日ハ君ハ裝束細長ニ袍
着貫を召と申事ハ座ハ又女房裝
束抄ニ建暦元年四月十日姫君ニ真
菜姫君白重ニ織物細長同き織物
ニ小袖二重細長を用ハ時ハ何こめ襪を
不用是先例也つとハ座ハ狩外ニ常を写
掛ハ目ハ

一 御単小菱とハ
単地ハ通例綾ニ而色ハ定事無ハ座ハ下去大
概ハ赤地綾ニ而座ハ小菱の事綾の地紋小キ
菱を織付申ハ是を相ニ名目と覚ハハ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一誤ニ而座ル
御襠裃

是ハ仍書ス通ニ而座ル地合の事亀甲ニ而座ル
方ハ綾ニて地紋ニきらかすのもやう織付ル
となル平絹ニハ二重ニて七夜ニ限ル
紋の絹を越て平絹ニ
事ニても色ニ仍幼児のるハ用ル事ニ
色ハ定りたる事も
刻の色ニての吟味仍座ル
是ハ口傳有外ハ難お
御入帷
仍書付ス通風呂敷の様成物ニて袖長又

一
ハ仍襠裃の袴を包ル
袋ニハ是も紋の名ニ
右ニ仍ニ而ハ紋ニ限むくの
ル大てい紋ニ限ム泥を
同しき露色小松ホ
浪泥をぬりたる
辛梶ニハ長梶のちいさ
衣紋の外家ニ有ル

一
案
是ハ仍衣紋を載セやすくしたる
座ル仍ニ而ハ雲ニ
ハいし遠ひしるし
千上ニ白羽の重ね仍座ル

一
ハ仍襠裃の袴を包ル
袋ニハ是も紋の名ニ
右ニ仍ニ而ハ紋ニ限むくの
ル大てい紋ニ限ム泥を
同しき露色小松ホ
浪泥をぬりたる
辛梶ニハ長梶のちいさ
衣紋の外家ニ有ル

一
案
是ハ仍衣紋を載セやすくしたる
座ル仍ニ而ハ雲ニ
ハいし遠ひしるし
千上ニ白羽の重ね仍座ル

一
ハ仍襠裃の袴を包ル
袋ニハ是も紋の名ニ
右ニ仍ニ而ハ紋ニ限むくの
ル大てい紋ニ限ム泥を
同しき露色小松ホ
浪泥をぬりたる
辛梶ニハ長梶のちいさ
衣紋の外家ニ有ル

一
案
是ハ仍衣紋を載セやすくしたる
座ル仍ニ而ハ雲ニ
ハいし遠ひしるし
千上ニ白羽の重ね仍座ル

一
ハ仍襠裃の袴を包ル
袋ニハ是も紋の名ニ
右ニ仍ニ而ハ紋ニ限むくの
ル大てい紋ニ限ム泥を
同しき露色小松ホ
浪泥をぬりたる
辛梶ニハ長梶のちいさ
衣紋の外家ニ有ル

一
案
是ハ仍衣紋を載セやすくしたる
座ル仍ニ而ハ雲ニ
ハいし遠ひしるし
千上ニ白羽の重ね仍座ル

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

此度も大方此通ニつゝ座ハ存ル

一 覆 穀織

一 帯 同前

右二通ハ所書付之通ニ座ハ穀織とハ紗のまゝ
そ細成浮織也順の和名抄ニ穀和名古女ヲ形
織ニトメ視之如粟

右有職者之評

一 細長

元ハ細長ノ袍トヤハ関腋の袍ノ類にて細長キ
袍ヨリ座ハ底ヤハ畧にて細長と斗もヤハ
仕立ハ持衣のことくニテ三たゝ張の袍ニ所座ハ

今

所ハ之なるも持衣のことくに座ハ裝束要
段抄後附ニ第之寸尺も付ハ而ハ色ハ多
子重なるヤハ之座ハ假名裝束抄見へヤハ
様細長なるヤハ所座ハ源氏玉かつら巻に
之へヤハ先ハ白織を用ヤハ太子所幼時又ハ
殿上ニ童童跡着用ハ女夏鏡抄に見ヘヤハ

一 亀甲

細長褓褓ホの文かしまて所座ハ

一 単

大ハ之忌ヤハ単と同事ニ所座ハ但大人ハ
紅を用ヤハ幼童ハ濃単とヤハ黒染を
用ヤハ但今度なるハ返照之以前ニ所座ハ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

にハ白単にてそれに座に欲

一 襁褓

和訓ハむつきとゆゑ但只今むつきとゆゑハ
全くしめしの事ニ而ハ共本儀に左様に
てハに座なくに和名抄にも小児被ことゝへ
ゆゑ廣八寸長八尺共お見へ長一丈二尺共
お見へゆゑ但當時の丈尺遠ひゆゑ欲

一 平絹

是平絹の書誤にてうたとなく平絹ハ文
りしのなきなの絹半練なるを用ゆゑ

一 入帷

是ハ絹の内へ入ゆゑ幅廣の絹にて畢竟中
の包にそれに座に強て定に製ハ無に座に

一 華足

只今行具なるに用ゆゑ華足内事に座に
三宝の小キ様成物にてに座に

一 裹

是ハつゝにてゆゑは風呂敷の類是には
さして定に製ハ無に座に

一 辛櫃

元来ハ韓櫃と書ゆゑ定ゑ韓国の櫃此通と
存に是ハ半櫃の様にて四角に足もなくし
ものにてに座に

一 一合

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

合ハ其ことに訓シ笑櫃の数何にても嫡さの
あるを入れを何合くとかれ
一 案 今のはくれにて座ハ但几とかれハ
同数にて少遠ひかれハ几ハ丸く足ハ何事に
くけかれ今の膳具にて座ハ
案ハかとハ座ハて足にも横すれハ座ハ
一 覆 案の覆也
おしひの絹にて是も定ハ制無ハ座ハ
一 帯 細長の帯とかれて格別の制あるしハ
事由不存ハ先ハ狩衣の帯同事ニ云 細長の
共切にていしハ帯と存ハ
一 銀笑

真菜始なりの細長の笑の上にハ鶴亀松井
を主れにいしハ此度ハ竹無ハ座ハ
御名を掛ハてク又ハ四色をさけてと歟

細井
先祖代ニ三川御普代筋也 清康公御代ニ
比ヨリ奉仕スト云 先祖三川細井郷ヨリ出

勝宗 細井喜三郎 味方原ニテ討死

勝久 喜太郎 金兵イ 千六百石
鉄炮首 元和六死七十七

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

正成　五左イ門　堺政所
アヤ住ニテ召ト出サレ下総国ニ分寺領内ニテ二百石
ヲ下其后和州芦野領ニテ三百石加増父ニ先
立テ早世故ニ三百石召上ラレ二百石ヲ正信エ下
サル

正信　喜三郎　父家督二百石玉フ
御小姓組　勝久死去ノ時正信エ二百石分知ノ事
勝吉ヘ申至熊氏其義ニ不及正信怒テ時ノ老中
ニ達ス然レ氏不達　上聞　寛永十一御社泉ハ供
ノ節正信エ二百俵ホトノ御合力アリテ都合四百
俵ノ軍後ヲツトム時ニ青山大蔵太捕組也右二
百石ノハ沙汰ナシ依テ御家ヲ立退甲州ニ蟄

居ス天草乱ノ時板倉重昌カ手ニ属シ功アリ
后ヲ召出四百俵ヲ下ハ書院番ニ入　寛文
十年西丸ハ裏門番頭ト成同十一年死

正永　五左衛　喜三郎　法名独有
ハ書院番　貞享四隠居

正勝内記　正信二子
浪人　其子二人アリ松平義行松平宣
冨ニ仕フ

正雄　五左衛　正永子　喜三郎
元六七ハ書院番

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

某　太郎右衛　正雄子
正信三子
正貞　喜太郎　仕館林君二百俵

某　金三郎　実正永二子
大御番

勝久二子
勝吉　喜八郎　金五郎
兄正盛早世ニ依テ父ノ家督ヲ継千六百五
十石領ス　元和六鉄炮ヲ以テ　同七年清水
勝武　金五郎　領地如元

勝行　金五郎　千三百五十石
延宝六ノ小性組
先ヲ並加増三百石元六三死

勝仍　二郎兵衛　分知三百石　壬子

正保二ノ年ヲ　万治三死

勝通　金五郎
ノ使番　千六百五十石

勝吉二子
勝興　左次右衛　千七百
好二百俵小十人組　寛永九五百俵ノ小性組
兼応元ノ先ヲ同二加三百石清水奉行延

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

宝二又ハ先手
正友 成瀬与大夫 丑年
二百俵 以下 子孫ナリ
勝正 忠左衛 三百俵 以下
貞享元ハ舟手加三百俵
六郎兵衛ハ小性組
忠八ハ書院番 弟
勝貞子
智勝 一学 新五郎 彦兵衛
千二百石 延宝六ハ小性組

勝芳 左次右衛 元六七ハ小性組 宝永ハ
使番 享保四ハ先手

御宮其外諸所額筆者
いまゝ其ハ仍を志しハ志ハ〳〵ハ其ハ不を写ス
紅葉山御宮 後水尾院宸筆
上野御宮 石御同筆
同中堂ルリ殿 霊元院宸筆
同仁王門東叡山 大明院御門跡
同回廊 後水尾院

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

同大猷公御仏殿
同厳有公御仏殿
同文珠樓 吉祥閣
護持院山王御社
同護摩堂
同一切経蔵
同聖堂大成殿
同入徳門
同杏壇門
同仰高門

右同

仙洞
大明院門跡
妙法院尭然親王
大明院
道風
細吉公

林信篤
持明院基持

稲荷大明神
増上寺
護國寺
浅草本堂
同大門浅草寺
同惣門金龍山
金池院水雲窩
同方丈
東海寺御位牌所 景福祠
同山門 潮音閣

乙訓寺観俊
後水尾院
細吉公
弘法大師
竹内御門跡
細吉公
朝鮮壷谷
同淳溟
同光御門跡
同筆

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

上州中田驛ノハツレニ
岩松山光了寺東一向宗
此寺ニ靜女ノ舞衣有之地黒ク織物ニテ模様
日月山龍也下袴モヤウ獣ノ形ノ由至テ古シ
上衣斗ニテ下袴手ニトラレス靜女ノ守刀白
サヤニテ袋赤地金襴靜法名
岩松院妙源大姉文治四年九月十五日
栗橋宿ヨリ七八町右ノ方ヱ入宝地渡村ニ靜
女ノ墓印大杉十囲ニ及フ側ニ小社アリ一言社
ト云一言ノ池埋リテ田地トナル別當真言京
藏寺

中田ノ左一里斗ニ靜ケ谷ト云村アリ奥州下向
ノ時靜女此所ニテ高舘落城ヲ聞立皈リシニ
ヨリ靜皈リト云心也トソ栗橋宿ノ内右ニ淨
土宗ジングワン寺 増上寺末土手上リ口ニ左會
津稲荷 来由不知 會津ノ人尊敬ノ由右七八町
過 川通リ大柳アリ凡四五囲ニミユル俗
説ニ靜カ楊枝ノ柳ト云傳フ
幸手宿ニ木綿嶋ニ綿糸ニテモヨウ織
付タル男女帯地アリ當地ニテ織出スト云

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

三韓紀畧伊藤長胤著卷六

文籍之篇畧記

三韓典記五十卷宋東国通鑑五十六卷明

三国遺事　帝王韻記　經國大典六

同續後録　大平通載　八十卷

太平廣記五十　輿地勝覧　東文撰十

桂苑筆耕　東大文絶十　三韓亀鑑一帙

李相国前後集絶十　金居士集絶十

銀臺集　双明斉　破閑集

補閑集　西河集断簡　益齋集記

櫟翁稗説　睿宗唱和　動安居士集

中順堂集　息影菴集　竹集

関東尾註　牧隠詩文集　稼亭集

樵隠集　圃隠集　陶隠集

農隠集　霽亭集　酉谷集

圓齋集　忠菴集　復齋集

此外詩文集多シ畧之

慵齋叢話　凡騒軌範　禁学軌範

浅見録　入学門説　海東諸国記

鬼神論　心気理説　東医宝鑑

医林撮要　芝峯類説　将鑑博義

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

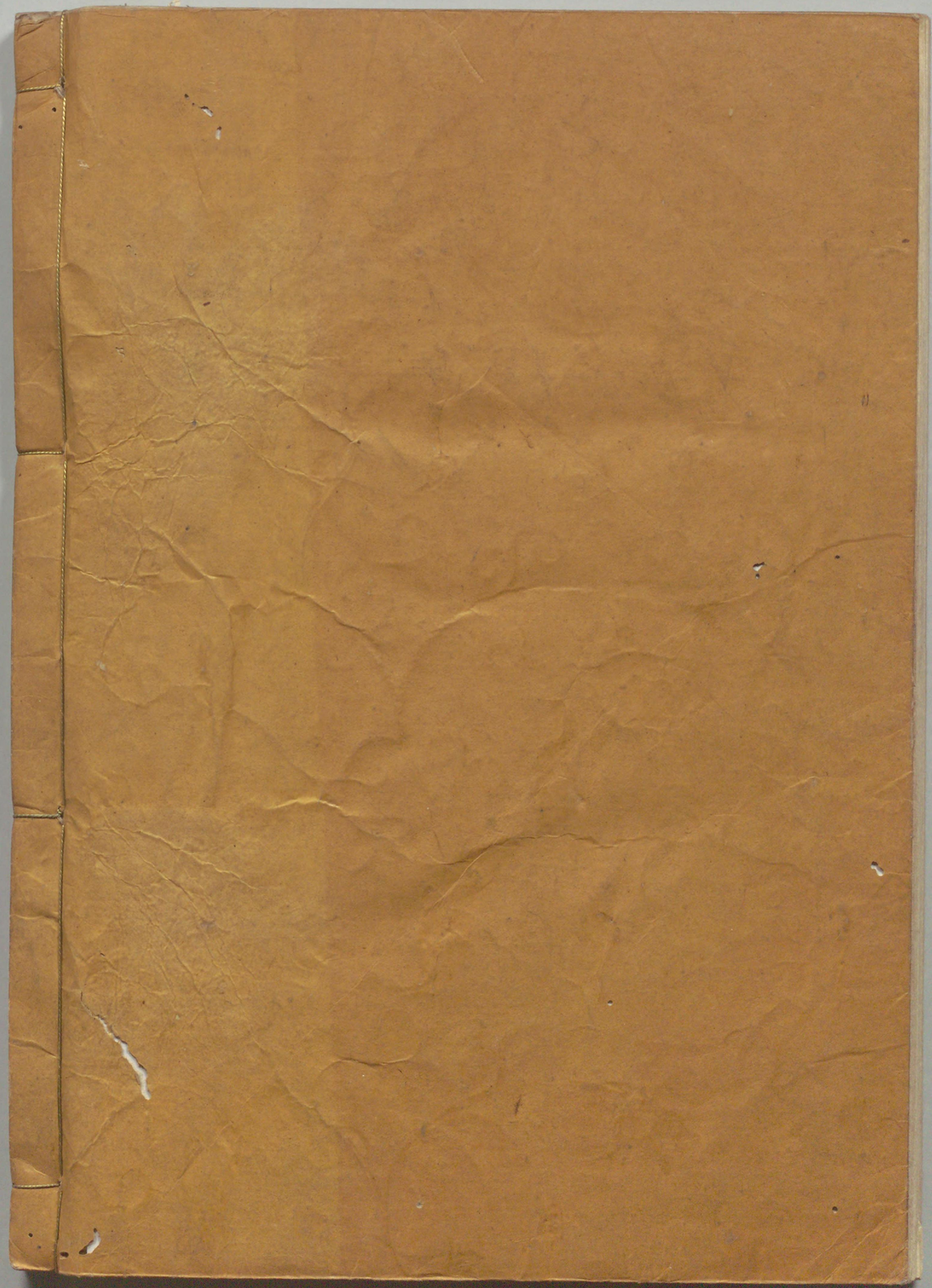
1000
御覧
3

続蒙求
神応経
大明律講解
続三綱行実
戦蒙要決
国朝儒先録
進修雑著
奉先雑儀
漂海六
朝鮮八道畨

中庸行義
鳩鵲方
巧事撮要
二倫行実
朱子書節要
陰崖日録
訓蒙字會
懲秘六
以下略

家礼考證
海道名迹
郷薬集成方
自省六
家範
鐘城記聞
永仁録
童蒙先習
入学畨説

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用



国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用